

2009年度(平成22年3月期) 決算説明会

大日本住友製薬株式会社
代表取締役社長 多田 正世

2010年5月11日

2009年度決算の概要

2009年度経営成績の総括

1. 連結範囲拡大に伴い売上高・売上総利益が増加
2. 経費の効率的な使用等により増益
3. 売上高・各利益とも業績予想を上回る

経営成績

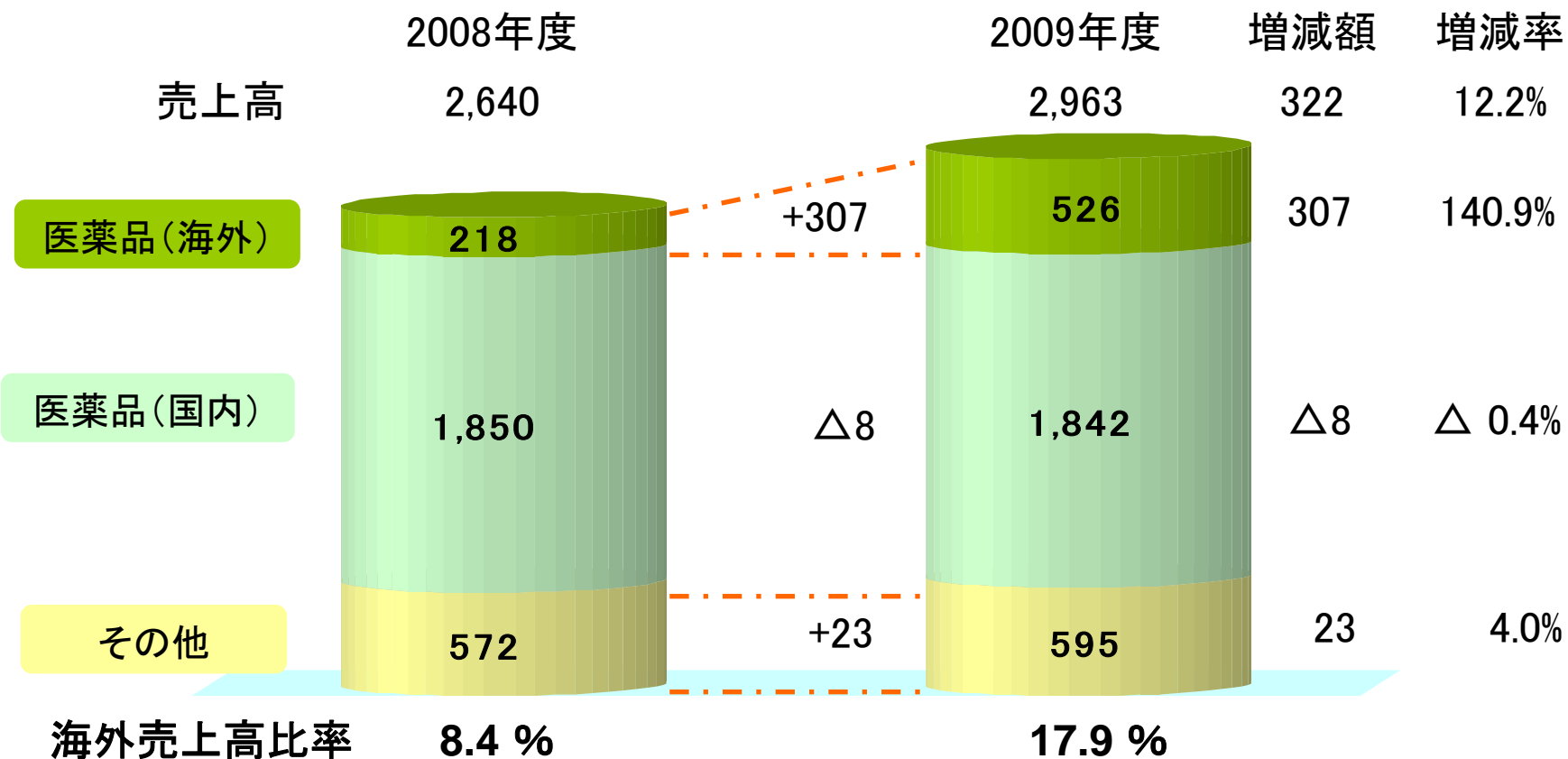
金額単位：億円

	08年度	09年度	前期比		業績予想	差額
			増減額	増減率		
売上高	2,640	2,963	322	12.2%	2,950	13
営業利益	312	356	45	14.3%	310	46
経常利益	314	338	24	7.8%	290	48
当期純利益	200	210	10	4.9%	190	20

- (注) 1. 記載金額は億円未満を四捨五入しております。
 2. 業績予想は本年2月3日に公表した数値であります。
 3. 09年度には、連結の範囲に加えた住友製薬(蘇州)有限公司の通年(09年1-12月)の業績とセプラコール社を含む米国子会社の第4Q(09年10/15-12月)の業績が含まれております。

売上高の内訳

金額単位：億円



(国内医薬品)

・アムロジンの減収をアバプロ・ロナセン他の製品の増収でカバー

(海外医薬品)

・セプラコール、住友製薬(蘇州)の寄与

(その他)

・インフルエンザ診断薬の売上増他

医薬品(国内)売上高

金額単位:億円

	08年度	09年度	前期比	
			増減額	増減率
アムロジン	579	520	△ 59	△ 10.1%
ガスモチン	202	207	6	2.9%
プロレナール	148	154	5	3.7%
メロペン	148	147	△ 1	△ 0.6%
戦略4製品 計	1,077	1,028	△ 48	△ 4.5%
アバプロ	15	37	23	154.7%
ロナセン	34	63	29	83.6%
トレリーフ	1	8	7	1,100.6%
ミリプラ	—	2	2	—
新製品 計	50	111	61	122.9%
エバステル	106	92	△ 14	△ 13.0%
スミフェロン	60	58	△ 2	△ 3.8%
アムビゾーム	31	40	10	31.4%
その他 計	724	703	△ 21	△ 2.9%
合計	1,850	1,842	△ 8	△ 0.4%

医薬品(海外)売上高

金額単位: 億円

		08年度	09年度	増減額
米国子会社	ルネスタ	—	105	105
	ゾペネックス	—	136	136
	ブロバナ	—	17	17
	オムナリス	—	6	6
	工業所有権収入	—	15	15
	その他	—	7	7
米国子会社 計		—	286	286
住友製薬(蘇州)	メロペン	—	38	38
	その他	—	4	4
住友製薬(蘇州) 計		—	41	41
輸出(外部顧客向) 計		218	198	△ 20
合計		218	526	307

セプラコール買収に伴う資産の評価等

金額単位：百万ドル

セプラコール買収に伴う資産等の評価および会計処理は以下のとおりです。

	取得原価 配分前	取得原価 配分後	評価差額	会計処理 (償却方法)
特 許 権	—	1,197	1,197	品目ごとに償却年数を 設定
仕 掛 研 究 開 発 (無形固定資産)	—	59	59	資産計上(承認取得後 償却)
た な 卸 資 産	67	144	78	販売時に売上原価計 上
上 記 に 対 す る 繰 延 税 金 負 債	—	△ 485	△ 485	—
そ の 他 の 資 産 ・ 負 債 (純 額)	633	678	45	—
の れ ん	26	914	888	償却年数20年
合 計	726	2,506	1,781	—

2009年度の 税引前損益 影響額	2010年度の 税引前損益 影響予想額
67	319
—	—
40	38
—	—
—	—
10	46
116	403

2009年度経営成績の内訳

金額単位：億円

	2009年度					
	米国子会社除く*1			米国子会社 *2	取得原価 配分の 影響*3	合計
	従来ベース	中国子 会社	合計			
売上高	2,648	28	2,676	286	—	2,963
売上原価	1,060	2	1,062	24	36	1,123
売上総利益	1,588	26	1,614	262	△ 36	1,840
販売費及び一般管理費	1,219	17	1,236	179	69	1,484
販売費・一般管理費	734	17	751	150	69	970
研究開発費	484	—	484	29	—	514
営業利益	370	8	378	83	△ 105	356
経常利益	356	7	364	79	△ 105	338
当期純利益	219	7	226	52	△ 69	210

* 1：昨年までの連結範囲に中国子会社(住友製薬(蘇州))を含んだ業績
(従来ベースは2008年度までの連結範囲)

* 2：セプラコール買収に伴う取得原価配分の影響を除く

* 3：特許権、のれんの償却など

売上原価・販売費及び一般管理費(米国・中国を除く従来ベースとの比較) 金額単位:億円

	08年度		09年度		前期比	
		対売上高 比率		対売上高 比率	増減額	増減率
売上高	2,640	—	2,648	—	8	0.3%
売上原価	1,037	39.3%	1,060	40.0%	23	2.2%
売上総利益	1,603	60.7%	1,588	60.0%	△ 15	△ 0.9%
販売費及び一般管理費	1,291	48.9%	1,219	46.0%	△ 73	△ 5.6%
販売費・一般管理費	763	28.9%	734	27.7%	△ 29	△ 3.8%
研究開発費	528	20.0%	484	18.3%	△ 44	△ 8.3%
営業利益	312	11.8%	370	14.0%	58	18.6%

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上原価)

- ・品目構成の変化等により原価率上昇

(販売費・一般管理費)

- ・広告宣伝費他経費の効率的使用により減少

(研究開発費)

- ・ルラシドン等臨床開発費の減少

営業外損益および特別損益

金額単位：億円

	08年度	09年度	前期比	
			増減額	増減率
営業利益	312	356	45	14.3%
営業外損益	2	△ 18	△ 20	
金融収支(受取配当金を含む)	16	2	△ 14	
寄付金	△ 18	△ 18	△ 1	
その他	4	△ 2	△ 7	
経常利益	314	338	24	7.8%
特別損益	8	△ 24	△ 32	
訴訟損失引当金戻入額	11	-	△ 11	
人事制度改定に伴う補償金	-	△ 16	△ 16	
投資有価証券評価損	△ 3	△ 8	△ 6	
法人税等・少数株主利益	△ 122	△ 105	△ 17	
当期純利益	200	210	10	4.9%

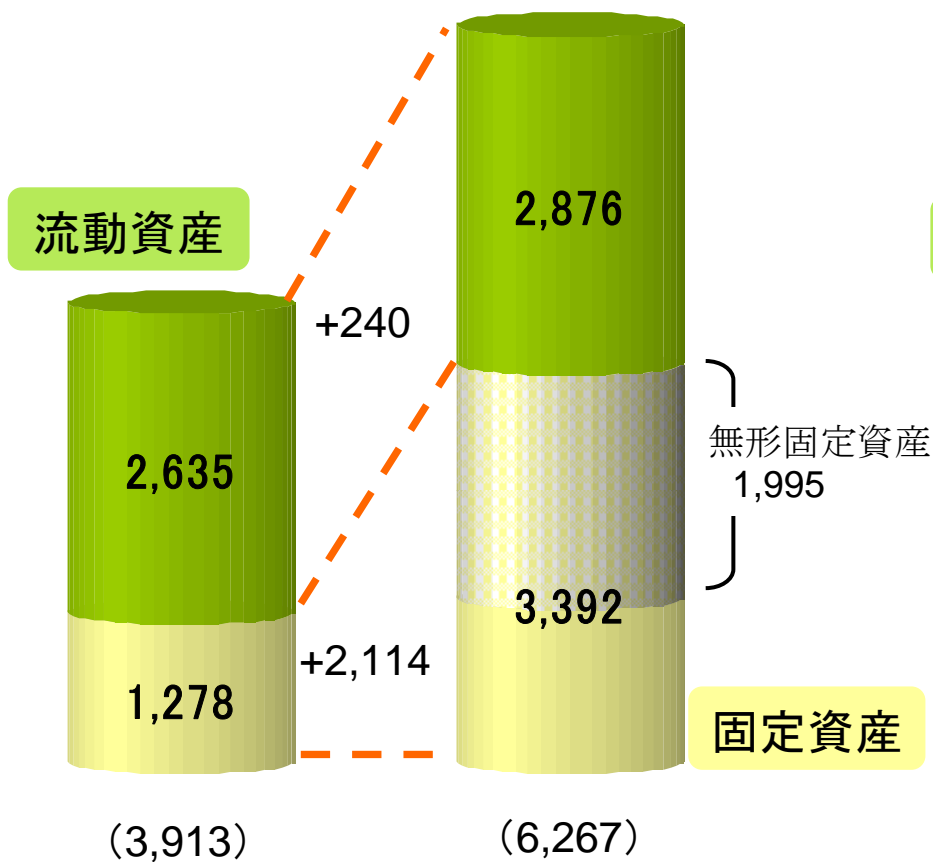
財政状態の変化

金額単位：億円

資産

2009年3月末

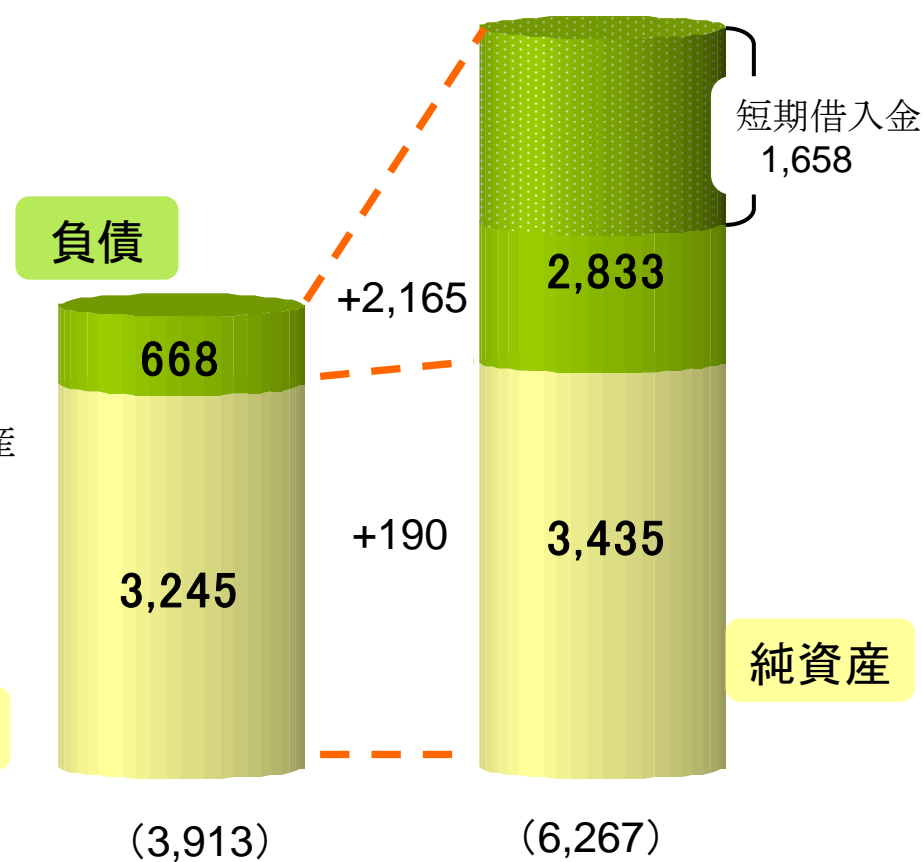
2010年3月末



負債純資産

2009年3月末

2010年3月末



自己資本比率

82.9%

→

54.8%

キャッシュ・フロー

金額単位：億円

I 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 267
・税金等調整前当期純利益	+ 314
・減価償却費	+ 186
・法人税等の支払額	△ 118
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,518
・有価証券の売却による収入	+ 194
・短期貸付金の純増減額	+ 250
・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 2,006
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	+ 1,319
・短期借入金の純増減額	+ 1,649
・社債の償還による支出	△ 258
・配当金の支払額	△ 72

当期末現金及び現金同等物残高 **581億円**

2010年度業績予想の概要

2010年度業績予想のポイント

1. 薬価改定、後発品影響による国内医薬品売上高の減収
2. 米国子会社が通年で連結されることによる売上・利益増
3. セプラコールの買収影響についても、通年で影響が発生
4. 財務上の利益は大幅減益、ただし、EBITDAは500億円以上を確保

2010年度業績予想

金額単位：億円

	09年度 実績	10年度 業績予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	2,963	3,540	577	19.5%
営業利益	356	35	△ 321	△ 90.2%
経常利益	338	10	△ 328	△ 97.0%
当期純利益	210	0	△ 210	△ 100.0%
EBITDA	564	520	△ 44	△ 7.9%
研究開発費	514	675	161	31.4%

※EBITDA:税金、利息、減価償却費、特別損益控除前利益

2010年度業績予想の内訳

金額単位：億円

	2010年度					
	米国子会社除く*1			米国子会社 *2	取得原価 配分の 影響*3	合計
	従来ベース	中国子 会社	合計			
売上高	2,392	38	2,430	1,110	—	3,540
売上原価	919	4	923	123	34	1,080
売上総利益	1,473	34	1,507	987	△ 34	2,460
販売費及び一般管理費	1,215	28	1,243	854	328	2,425
販売費・一般管理費	747	28	775	647	328	1,750
研究開発費	468	—	468	207	—	675
営業利益	258	6	264	133	△ 362	35
経常利益	232	6	238	134	△ 362	10
当期純利益	152	4	156	86	△ 242	0

*1：昨年までの連結範囲に中国子会社(住友製薬(蘇州))を含んだ業績
(従来ベースは2008年度までの連結範囲)

*2：セプラコール買収に伴う取得原価配分の影響を除く

*3：特許権、のれんの償却など

(注)前提為替レート
90円/\$、13円/元

医薬品(国内)売上高

金額単位: 億円

	09年度	10年度	前期比	
			増減額	増減率
アバプロ	37	80	43	113.9%
ロナセン	63	120	57	90.1%
プロレナール	154	160	6	4.0%
戦略3製品 計	254	360	106	41.5%
トレリーフ	8	28	20	253.6%
ミリプラ	2	15	13	524.1%
メトグルコ	—	7	7	—
新製品 計	10	50	40	384.4%
アムロジン	520	385	△ 135	△ 26.0%
ガスモチン	207	204	△ 3	△ 1.6%
メロペン	147	102	△ 45	△ 30.5%
アムビゾーム	40	51	11	26.9%
その他 計	1,577	1,360	△ 217	△ 13.8%
合計	1,842	1,770	△ 72	△ 3.9%

医薬品(海外)売上高

金額単位: 億円

	09年度	10年度	前期比		09年度 (年間)
			増減額	増減率	
ルネスタ	105	465	360	341.2%	500
ゾペネックス	136	413	277	203.7%	491
ブロバナ	17	72	55	334.8%	70
オムナリス	6	48	42	700.0%	27
工業所有権収入	15	66	51	337.9%	94
その他	7	46	39	517.0%	22
米国子会社 計	286	1,110	824	287.5%	1,204
メロペン	38	50	12	33.3%	
その他	4	6	2	53.7%	
住友製薬(蘇州) 計	41	56	15	35.2%	
輸出(外部顧客向)	198	164	△ 34	△ 17.0%	
合 計	526	1,330	804	153.1%	

米国・中国を除いた業績予想

金額単位：億円

	09年度 実績		10年度 業績予想		前期比	
					増減額	増減率
売上高	2,648	—	2,392	—	△ 256	△ 9.7%
売上原価	1,060	40.0%	919	38.4%	△ 141	△ 13.3%
売上総利益	1,588	60.0%	1,473	61.6%	△ 115	△ 7.3%
販売費及び一般管理費	1,219	46.0%	1,215	50.8%	△ 4	△ 0.3%
販売費・一般管理費	734	27.7%	747	31.2%	13	1.7%
研究開発費	484	18.3%	468	19.6%	△ 16	△ 3.4%
営業利益	370	14.0%	258	10.8%	△ 112	△ 30.2%

(注) 売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

(売上原価)

- ・薬価改定の影響による原価率上昇
- ・小売店向けペットフードの売上計上基準の見直しなどによる原価率低下

(販売費及び一般管理費)

- ・国内医薬品売上高増に向けた販売費・一般管理費の増加
- ・ルラシドン海外開発費の減、次期戦略候補化合物の開発費増
- ・更なるコスト削減

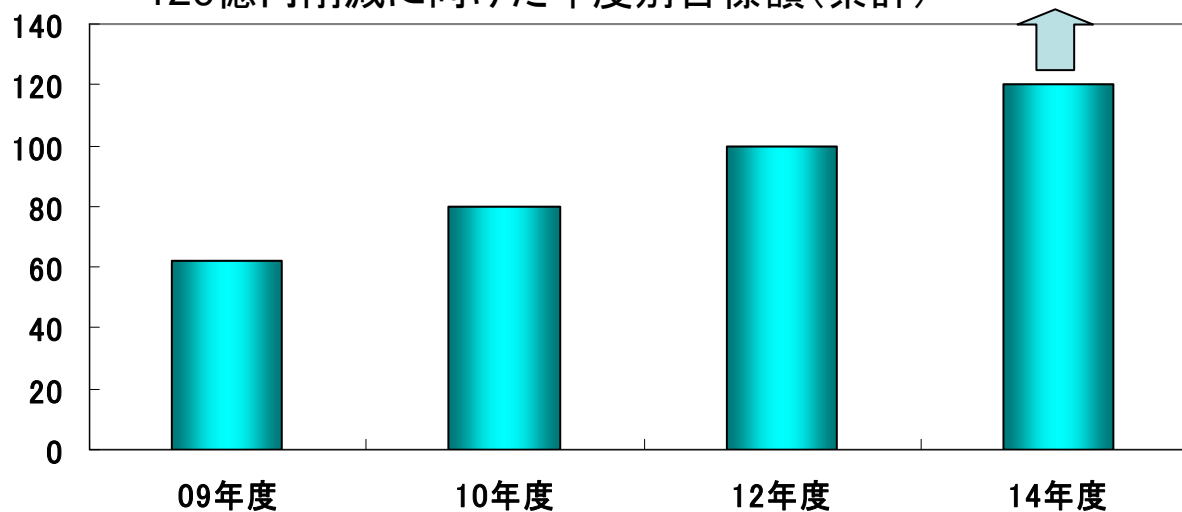
コスト構造の改革

■ 目標： 2014年度までに120億円超のコスト削減推進

■ 主たる内容

- 収益向上のための経費の有効活用
- 分社化・外注化・拠点統合などによる原価低減
- 組織・業務改革による人員の効率化・本社費低減
- あらゆる無駄の廃絶

120億円削減に向けた年度別目標額(累計)



2009年度で大幅な削減実行→前倒しでの目標達成を目指す

株主還元について

■ 基本方針

- 将来の成長のための積極的な投資および内部留保とのバランスをとりつつ、業績に応じた適切な配分を実施
- 安定配当にも配慮

■ 配当推移

	08年度	09年度(予定)	10年度(予定)
1株当たり配当金(円)	18.00	18.00	18.00
連結配当性向(%)	35.8	34.1	—

〈参考〉

純資産配当率(%)	2.2	2.1	2.1
-----------	-----	-----	-----

国内収益構造の変革

2010年度 重点課題

■ 製品構成の変革

● 特許品・長期収載品比率

中期経営計画 年度	第一期		第二期	
	2007年度	2009年度	2010年度	早期達成
特許品／長期収載品	70／30	40／60	45／55	50／50

● 戦略品・新製品への営業資源の集中 → 製品価値最大化

年度	2009年度	2010年度	増加額
戦略品 アバプロ・ロナセン・プロレナル	254	360	106
新製品*1 トレリーフ・ミプラ・メグルコ	49	85	36
営業資源(ディテール)	30%	55%	25%

*1:メルビン含む

金額単位:億円

メトグルコ 新発売

ビグアナイド系経口血糖降下剤

「メトグルコ[®]錠250mg」(一般名:メトホルミン塩酸塩)

- 1月20日:製造販売承認 5月10日:新発売
- 既存メトホルミン製剤に比べ用量範囲が拡大し、用量依存性の血糖降下作用を示します。
- 適正使用の普及を最優先とし、医療現場で安全にご使用いただくための情報活動を徹底して行います。
- 2型糖尿病の基礎治療薬として、患者さんの治療に一層貢献できることを期待しています。

2010年度 重点課題

■ 営業体制の変革

- 顧客視点の活動を徹底し、顧客との信頼関係を構築
 - MRの質的強化を図るための教育を充実
 - 多様化・高度化する顧客ニーズの把握、対応力強化
 - 地域本部制強化による顧客対応の迅速化

- 売上重視から利益重視へのシフトによる収益構造改革
 - 収益性・将来性の高い品目への営業資源投入シフト
 - コスト意識徹底によるMRの行動効率の向上
 - ボトムアップ立案と損益管理の推進

海外事業の拡大



セプラコール経営の基本方針

■ ガバナンスの5原則

- 経営理念の共有を図る。
- グローバル戦略は当社とセプラコールが協議のうえ当社が決定する。
- セプラコールの重要経営事項は同社の取締役会にて決定する。
- 現地のオペレーション事項はセプラコールの責任で決定する。
- グループの事業価値最大化、シナジーの最大化を目指す。

■ セプラコールの経営体制

- 会長兼CEO: 濱中三郎 社長兼COO: Mark Iwicki
主席副社長兼CSO兼開発本部長: 田村伸彦
- 取締役会の構成: 濱中、Iwicki、田村、多田、竹内、野村

ルラシドン米国発売に向けて

発売までのスケジュール

- 2009年12月 FDA申請
- 2010年10月 FDA審査終了予定
- 2011年1Q 上市予定

営業体制の構築

- 上市時はMR300名体制を予定
(セプラコール社内＋新規採用)
- 承認取得次第、新規採用を開始

臨床試験結果概要

- 二重盲検比較試験 4試験にてPANSS総合点数でプラセボと有意差
- 高い忍容性を示し、体重増加、血中脂質や血糖値等の代謝パラメーターの変化はプラセボと同程度でほとんど認められなかった。
- 運動障害パラメータ、血中プロラクチン濃度への影響もわずかであった。

市場機会

- 統合失調症は慢性の精神疾患で、米国で約2-3百万人が罹患している。
- 世界保健機構によると、統合失調症は日常生活を妨げる原因として世界で第6番目に位置づけられている。
- 抗精神病薬全体市場(米国): 145億ドル(2009年)。前年比+4%
- 有効性と安全性の両方を満足させる既存薬は未だなく、治療の中止、変更が頻繁に行われ、新しい治療薬の要望が高い。

今後の開発とプロモーション

- 双極性障害うつへの適応症拡大
- 認知機能改善の可能性
- ルラシドンと販売会社名の認知度の向上

中国事業の拡大に向けて

住友製薬(蘇州)の販売拡大策

- ガスモチン販売開始 2010年7月予定
- MRを大幅増員予定 200名(2010年3月末) ⇒ 280名(2010年12月末)へ
- パイプラインの強化 「カルセド」の開発加速、「ロナセン」の開発着手

協和発酵医薬(蘇州)との統合スケジュール

- 住友製薬(蘇州)との統合は2010年10月末完了予定

- 包装工程の生産開始 2011年4Q予定
- 製剤工程の生産開始 2014年1Q予定



臨床開発の現況

臨床開発の現況 (2010年5月10日現在)

	申請中	第Ⅲ相	第Ⅱ相	第Ⅰ相
国内	<p>SMP-508 (糖尿病)</p>	<p>ルラシドン (統合失調症)</p>	<p>AS-3201 (糖尿病合併症)</p> <p>DSP-8153 (高血圧症/配合剤)</p>	<p>SMP-986 (過活動膀胱)</p> <p>DSP-3235 (糖尿病)</p> <p>DSP-3025 (喘息、鼻炎)</p> <p>SMP-028 (気管支喘息)</p>
海外	<p>ルラシドン 米国 (統合失調症)</p> <p>STEDESATM 米国* (てんかん(併用療法))</p> <p>新有効成分</p> <p>適応症追加等</p> <p>* セプラコールのパイプライン</p>	<p>ルラシドン 米国・欧州等 (双極性障害)</p> <p>アムルピシン塩酸塩 中国 (小細胞肺癌)</p> <p>OMNARIS® HFA Nasal MDI 米国* (アレルギー性鼻炎)</p> <p>STEDESATM 米国* (てんかん(成人単剤))</p>	<p>SMP-986 米国・欧州 (過活動膀胱)</p> <p>ALVESCO® HFA 米国* (喘息(年齢未定))</p>	<p>SMP-028 米国・欧州 (気管支喘息)</p> <p>DSP-7238 欧州 (糖尿病)</p> <p>DSP-8658 米国 (糖尿病)</p> <p>SEP-227900 米国* (認知/疼痛/アルツハイマー病)</p> <p>SEP-228432 米国* (注意欠陥多動性障害)</p>

臨床開発 進捗状況(2010年2月3日からの主な変更点)

■ SMP-028: 国内第 I 相を開始

■ ポートフォリオの優先度評価の実施

- ポートフォリオの優先度評価の結果、下記開発を中止
第 II 相: SEP-227018、SEP-225289、SEP-227162

グローバル研究開発体制の整備

■ グローバル会議体(仮称:グローバルPMC)の設置(2010年5月予定)

- 当社とセプラコールのR&D主要メンバーから構成
- グループの研究および開発に関する重要事項をグループ全体の戦略的観点から審議
- グローバルR&D戦略、開発計画および予算案を審議し、優先順位を決定
- グローバルプロジェクトを選定する

* PMC (Portfolio Management Committee)

ルラシドン 開発進捗状況

統合失調症：

2009年12月30日（米国時間）
FDAへの新薬承認申請完了

Program to
Evaluate the
Antipsychotic
Response to
Lurasidone

■ 統合失調症 継続中の第Ⅲ相試験

- プラセボ及び実薬（オランザピン）対照第Ⅲ相試験（PEARL 2試験）
 - 継続投与試験データ解析中
 - APA（2010年5月22-26日、New Orleans）で詳細データを発表予定
- 長期安全性投与試験（PEARL Safety試験）
 - 2008年3月にスクリーニング開始、投与中
1年間投与試験は2010年内にデータ入手予定
- プラセボ及び実薬（クエチアピンXR）対照第Ⅲ相試験（PEARL 3試験）
 - 2008年10月にスクリーニング開始、投与中
6週間投与試験は2010年内にデータ入手予定

ルラシドン 開発進捗状況

■ 双極性障害（うつ）第Ⅲ相試験（PREVAIL試験）

- 2009年4月、スクリーニング開始、投与中
- 2012年前半、適応追加申請予定

PRogram to
EValuate the
Antidepressant
Impact of
Lurasidone

■ 国内（Pan-Asia）開発

- 日本、台湾、韓国で統合失調症患者に対する第Ⅲ相試験を実施中
- 試験計画概要
 - 対照薬：プラセボ（参照薬：リスペリドン）
 - 目標症例数：440例
 - 主要評価項目：PANSS

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品(開発中のものを含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。